

第43回 高知女子大学看護学会報告

高知女子大学看護学会企画委員長 田 井 雅 子

メインテーマ：変動する世界の中で 『ケアとキュアの融合』を刷新する

第43回高知女子大学看護学会は、「変動する世界の中で『ケアとキュアの融合』を刷新する」をメインテーマに、平成29年7月22日（土）に高知県立大学池キャンパスにて開催された。

当日は卒業生・修了生をはじめ県内外の施設の看護職者ら185名の皆様の参加を得て、活気ある学術集会となった。

午前は、東京医科大学顧問の岡谷恵子先生を講師に「新たな看護の創造に向けて、今、何をすべきか」というテーマで講演を開催し、午後は、7つのワークショップを開催した。



学会長挨拶

講演に先立ち、野嶋佐由美学会長から、参加者、講師、ご来賓の方々に対し、学会への参加に感謝の意が伝えられた。

今回の学会テーマである『ケアとキュアの融合』の刷新について、少子化、超高齢化による社会構造の変化に伴い、我々を取り巻く世界が急激に変化しており、そのような状況であるからこそ、実践や教育、研究において、ケアとキュアの融合を可視化し、刷新していく必要があると述べられた。

看護はケアとサイエンスの融合から始まり、サイエンスの変化によってキュアとケアが変化しており、ケアとキュアの融合、ケアの中にサイエンスを取り込んでいくことが私たちに求められている課題である。これまで人が判断していたところにAIが導入され始めており、ケアにおいても科学技術を使うことがこれからの専門職者には求められている。午前の講演、午後のワークショップで、ケアとキュアの融合について色々な切り口から皆様と意見交換を行いたいと述べられた。

来賓の挨拶

高知県看護協会会長 宮井千恵氏、高知県立大学同窓会会長 梶原和歌氏、高知県立大学同窓会しらすぎ会会長 山崎美恵子氏より、第43回高知女子大学看護学会開催のお祝いと今後の学会の発展への期待が述べられた。

講演会：10:15～11:45

高知女子大学の卒業生でもあり、東京医科大学顧問の岡谷恵子先生を講師に「新たな看護の創造に向けて、今、何をすべきか」と題し、ご講演いただいた。講演の内容については、本学会誌をご参照いただきたい。

講演後のアンケートでは、「時代や地域にあったケア・キュアが重要だと感じた」「在宅看護に関する内容が多く、とても刺激になった」「ケアとキュアが別々に存在しているのではなく、ケアの中にキュアがあることを再確認できて、今後の方向性にヒントをもらえた」「地域包括ケアにおける看護の役割や機能について示唆を得ら

れた」「医療と介護というワードが主流になっていて、看護の存在が薄れているようで危機感を感じ、看護の存在をアピールしたい」「地域に出ることを考えた基礎教育を益々頑張ろうと思った」などの意見が寄せられた。



ワークショップ：13:30～15:30

7つのワークショップが開催され91名の参加があった。アンケートでは、「自分の関心のあるテーマについて、それぞれの機関の支援者のディスカッションが聞けて、たくさん視点を得ることができました」「事例を通してさまざまな立場の方から意見が伺えて、現状把握と解決への糸口が見えた気がしました」「自分で考えることを育てるために、有効な方法が分かってよかった。実際にシミュレーション教育で育った学生さんの意見がきけてよかった」などの感想が寄せられた。ワークショップの詳細は、本学会誌の報告をご覧ください。